

統計調査ニュース

令和5年（2023年）12月

No.445



三つのキーワードで令和5年を振り返る

総務省統計局統計調査部長

永島 勝利

都道府県・調査員の皆様におかれましては、本年も統計局所管の統計調査を円滑かつ確実に実施いただき、誠にありがとうございます。

さて、早いもので今年も残すところ一月を切りました。今年1年を筆者が重要と思う三つのキーワードから振り返ってみます。

一つ目は「物価」です。長らくデフレ脱却が日本経済の課題でしたが、令和5年は前年同月比で3～4%の物価上昇が毎月続く展開となりました。政府として、電気代やガソリン価格の急激な上昇に対する激変緩和の事業など種々の物価対策を講じるとともに、民間企業による賃上げを支援するため税制見直し等の対応を実施しました。また、4月には、10年以上にわたり日本の金融政策を担ってきた黒田氏から経済学者の植田氏に日銀総裁が交代しました。物価の番人とも呼ばれる日銀の動きから今後とも目が離せません。

二つ目は、「人流の復活」です。5月に新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが見直

されたことに伴い、人流が戻ってきました。飲食店やレジャー施設などに活気が戻ってきましたし、円安の影響もあって海外からの旅行者が急増し、いわゆるインバウンド消費も再び見られるようになりました。昨年までの状況とは隔世の感があります。

三つ目は、「（生成系）AI」です。代表格のChatGPTが1月に一般公開されてから、世界中で大流行しました。これは、ネット上などにある膨大なデータを読み込んで学習したAIが、簡単な指示により、原稿の下書きや外国語の翻訳などを非常に高い精度で作成するというもので、社会の在り方を根本的に変える可能性すら秘めていると言われます。AIとどう付き合っていくかは、今後の人間社会の大きな課題と言えます。

以上、三つのキーワードのいずれも、公的統計や客観データと深く関わっています。このことから分かるように、今後、公的統計はますます重要になっていきます。公的統計への皆様の変わらぬ御支援・御協力を来年もよろしくお願いします。

目次

三つのキーワードで令和5年を振り返る	1	国連アジア太平洋統計研修所「持続可能な開発目標(SDGs)のモニタリングのための公的統計の理論と実務」コースの実施報告	6
Data StaRt Award～第8回地方公共団体における統計データ利活用表彰～受賞団体の決定	2	日本統計年鑑の御紹介	8
令和5年度 統計データ・グラフフェアの開催について	3	統計データの利活用を推進するため地方自治情報化推進フェア2023に出展しました!／令和5年度 統計研修受講記	9
第71回統計グラフ全国コンクール入賞作品決定	4		

Data StaRt Award

～第8回地方公共団体における統計データ利活用表彰～受賞団体の決定

総務省統計データ利活用センターでは、客観的な統計データに基づく的確かつ効率的な行政運営を促進する観点から、地方公共団体における統計データの利活用を推進することを目的として、統計データを利活用した優れた取組を進める地方公共団体に対する表彰を実施しています。

令和5年度に実施した第8回の総務大臣賞、統計局長賞及び特別賞は次のとおりです。

【総務大臣賞：富山県】主観的・多面的・持続的な「ウェルビーイング（well-being）」を捉える指標の策定と向上施策の展開

- ✓ 県民意識調査を実施し、多様な県民の意識をウェルビーイングの観点から可視化。調査結果をもとに、独自の「ウェルビーイング指標」を策定したほか、これらのデータを活用し、県民起点のきめ細かな政策展開に繋げていく。



【統計局長賞：岡山県】調査用封筒の切り替えに向けた検証

- ✓ 県民を対象としたアンケート調査を題材に、回収率を維持しつつ、経費節減となるように、大型封筒から小型封筒へ切り替えても効果が変わらないか検証した。検証に当たっては、専門家の助言を得つつ、非劣性試験の手法を用いて実施し、黄色の小型封筒は大型封筒の回収率に劣らないことが確認できた。



【特別賞：大阪府豊中市】市政データ利活用で企業立地促進施策の効果検証を可視化

- ✓ 市政データ利活用で企業立地促進施策の効果検証を可視化。4年間で固定資産税増収約2億円、産業集約効果も確認できた。

【特別賞：兵庫県神戸市】EBPMで創る人口戦略

- ✓ 人口減少の「抑制」と「適応」の二つの視点に基づく人口戦略をテーマに、「R」を使った重回帰分析により人口増に寄与する要因の分析を行ったほか、神戸市独自の将来人口推計や人口減少と公共サービスを重ねてみるダッシュボードを作成し共有することで、人口規模に応じた行政サービスを俯瞰的にみて議論することが可能になった。

【特別賞：長崎県】「つながる長崎」データ連携基盤整備事業

- ✓ 長崎県のほか、県内企業、金融機関、農業・水産・商工など様々な業界団体や有識者、県内全21市町で「ながさきSociety5.0推進プラットフォーム」を立ち上げ、協議しながら事業を推進している。

本表彰事業及び受賞取組の概要については、下記のウェブサイトをご覧ください。

【Data StaRt Award～地方公共団体における統計データ利活用表彰～（事業紹介）】

<https://www.stat.go.jp/info/guide/rikatsuyou/index.html>

【Data StaRt Award～第8回地方公共団体における統計データ利活用表彰～（受賞取組の概要）】

https://www.stat.go.jp/guide/public/rikatsuyou/pdf/ho231018_ref.pdf

令和5年度 統計データ・グラフフェアの開催について

総務省政策統括官(統計制度担当)室では、「統計の日」(10月18日)の関連行事の一つとして、10月28日(土)・29日(日)の2日間、新宿駅西口広場イベントコーナー(東京都新宿区)において、総務省、東京都及び(公財)統計情報研究開発センターの共催により、「統計データ・グラフフェア」を開催しました。

会場では、統計グラフ全国コンクールの入賞作品等の展示のほか、各都道府県の魅力が分かる企画展示、各府省の統計調査の紹介等、統計の大切さ、面白さを感じていただける展示を目指し、開催しました。

開催においては、各府省及び地方公共団体、日本銀行等から、展示物及び各種統計資料について御提供をいただく等、多くの皆様の御協力を得て実施しました。本年も御盛況をいただき、開催2日間で約9,000人もの大変多くの方に御来場いただきました。御協力賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

以下、当フェアの様子について紹介します。

統計グラフコンクール入賞作品展示コーナー

統計グラフ全国コンクールの入賞作品及び東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県統計グラフコンクールにおける入選作品を合わせて約200作品展示しました。

全国の小学生、中学生、高等学校・一般等、各部門ごとに、世界規模の大きなテーマから身近なものを観察したテーマまで、統計グラフを用いて作成された、様々な視点による工夫の凝らされた作品を展示しました。多くの方が来場され、熱心に御覧になっていました。



(統計グラフコンクール入賞作品展示コーナーの様子)

「統計の日」関連コーナー

統計の日(10月18日)は、統計の重要性に対する関心と理解を深め、統計調査に対するより一層の協力を得られるようにと昭和48年に閣議了解で定められました。日本の「統計の日」関連コーナーでは、「統計の日」の解説や、今年度の「統計の日」標語の入選作品一覧の展示、歴代「統計の日」ポスターの紹介等の展示を行いました。

都道府県の企画展示コーナー

各都道府県に御協力いただき、統計データを用いた都道府県の魅力が分かる企画展示(パネル展示)や、地域の特色や観光等の様々な資料・パンフレットの配布などの広報展示を行いました。大変多くの方が訪れ、パネルの写真撮影に加え、興味を持った資料やパンフレットを手に取り持ち帰られる方が多く、大変なごにぎわいを見せました。



(都道府県の企画展示コーナーの様子)

各府省の統計調査紹介コーナー

来場者の皆様に国が実施する統計調査への関心と理解を深めていただくため、各府省から提供していただいた統計調査の概要、統計調査公表資料、報告書、活用事例紹介資料の配布とともに、統計調査結果を活用したパネル、各種統計調査のポスター等の広報資料の展示を行いました。公表資料等の各種資料について持ち帰られる方や展示を熱心に見られる方など、各府省の統計に興味関心を持つ方々が見られました。



(各府省の統計調査紹介コーナーの様子)

前記のほか、子供から大人まで統計を気軽に学べる「統計教育紹介コーナー」を設けました。

総務省政策統括官(統計制度担当)室では、これからも、国民の皆様は統計の重要性に対する関心と理解を深め、統計調査に対するより一層の御協力をいただけるよう、引き続き、統計の普及・啓発活動に取り組んでまいります。

第71回統計グラフ全国コンクール入賞作品決定

総務大臣賞は、茨城県北茨城市立関本小学校5年 角場 小羽音さん
北茨城市立大津小学校5年 小峰 樹月さん の作品

昭和～令和で変化した？希薄化にSTOP！ ～大切にしたい、ご近所付き合い～

【統計グラフ全国コンクール】

統計グラフ全国コンクールは、国民の皆さんに、統計グラフの作成を通じて、日常生活の中で統計を利用することの有用性を知っていただくとともに、統計調査への理解を深めていただくことを目的に、昭和28年から実施されています。（公財）統計情報研究開発センターが主催する第71回統計グラフ全国コンクールは、総務省、文部科学省等の関係機関が後援及び協賛し、実施されました。

【審査経過】

第71回を迎える本年度は、全6部門に、全国の小・中学生から一般の方々まで、計19,554作品に及ぶ多くの応募があり、各都道府県の統計グラフコンクールを兼ねた第1次審査、総務省職員等による第2次審査を経た後、統計グラフ全国コンクール最終審査会（審査委員長：渡辺美智子立正大学データサイエンス学部教授）において、部門別に特選6作品が決定されました。

さらに、各部の特選作品から、「総務大臣賞」、「文部科学大臣賞」、「日本統計学会会長賞」、「日本品質管理学会賞」、「金丸三郎賞」及び「石橋信夫賞」を決定しました。

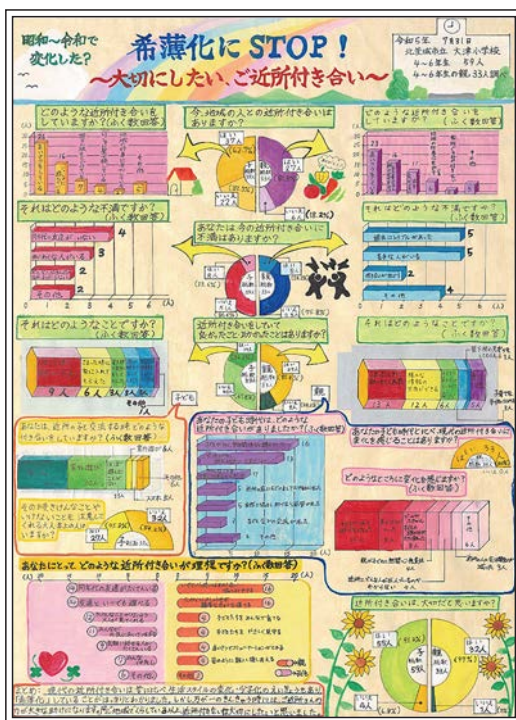
令和5年度 総務大臣賞及び文部科学大臣賞

【総務大臣賞】

昭和～令和で変化した？希薄化にSTOP！

～大切にしたい、ご近所付き合い～

〔第3部（小学校5・6年生の児童）特選作品〕

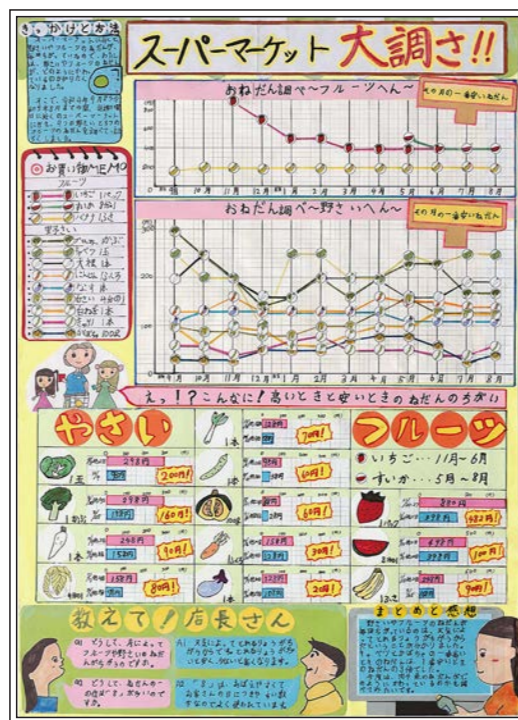


茨城県北茨城市立関本小学校5年 角場 小羽音さん
北茨城市立大津小学校5年 小峰 樹月さん

【文部科学大臣賞】

スーパーマーケット大調査!!

〔第2部（小学校3・4年生の児童）特選作品〕



愛媛県松山市立さくら小学校3年 阪本 茉莉さん

特別賞受賞作品

【日本統計学会会長賞】

やさいのねだんを知ってこんだてになやむ
おかあさんをたすけよう

〔第1部(小学校1・2年生の児童)特選作品〕

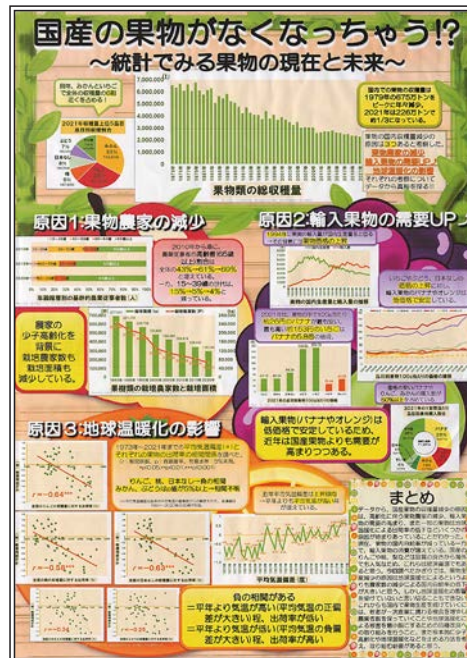


富山県砺波市立砺波北部小学校2年
水戸 椋太郎さん

【日本品質管理学会賞】

国産の果物がなくなっちゃう!?
～統計でみる果物の現在と未来～

〔パソコン統計グラフの部特選作品〕

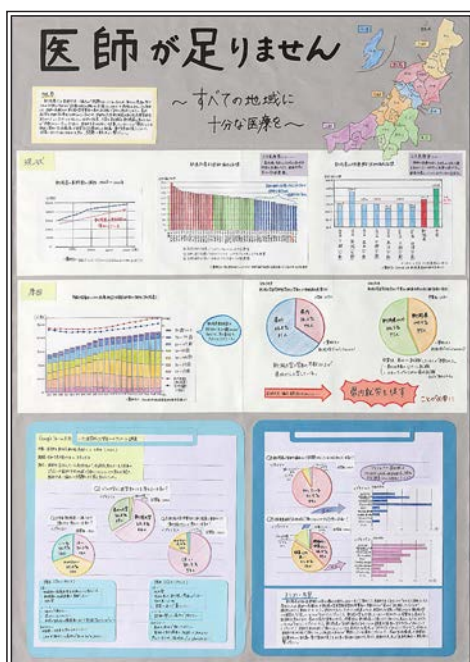


愛知県名古屋大学教育学部附属高等学校1年
青木 耀さん

【金丸三郎賞】

医師が足りません～すべての地域に十分な医療を～

〔第5部(高等学校以上の生徒、学生及び一般)特選作品〕

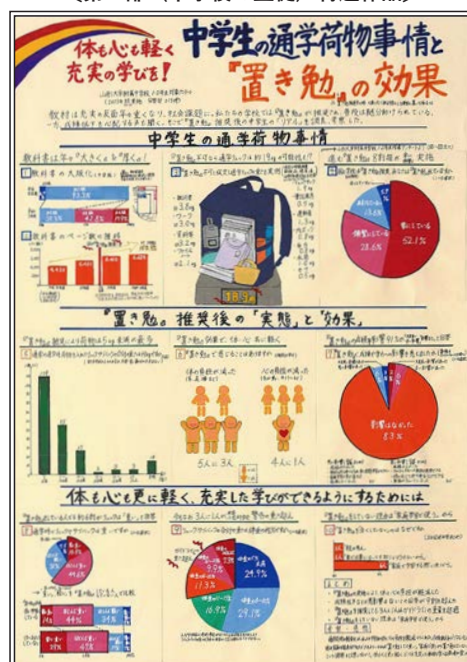


新潟県新潟県立新潟高等学校2年
園田 かづはさん、姉崎 佳音さん、片桐 萌珈さん
高杉 奈央さん、滝沢 こはるさん

【石橋信夫賞】

体も心も軽く充実の学びを!
中学生の通学荷物事情と「置き勉」の効果

〔第4部(中学校の生徒)特選作品〕



山形県山形大学の附属中学校2年
富樫 晃仁さん

国連アジア太平洋統計研修所

「持続可能な開発目標（SDGs）のモニタリングのための公的統計の理論と実務」コースの実施報告

国連アジア太平洋統計研修所とは

国連アジア太平洋統計研修所（SIAP）は、開発途上国の政府統計職員に対し、より高い統計の実務能力を養成することなどを目的とした、国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）の地域機関です。千葉県千葉市にあり、総務省が招請国政府の協力機関となっており、1970年に日本国政府と国際連合との間の協定に基づいて設立されて以来、アジア太平洋諸国だけでなく、北米や中南米、ヨーロッパ、アフリカも含めた、世界中の政府統計職員等約3万人以上を養成してきました。

「持続可能な開発目標（SDGs）のモニタリングのための公的統計の理論と実務」コースについて

このコースは、独立行政法人国際協力機構（JICA）と共同で開催しており、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」及び「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs（※））」に不可欠な公的統計の整備・充実を図る見地から、アジア太平洋地域等の開発途上国の政府統計職員に対して、統計調査及び指標の設計・解釈・公表における基礎理論と実務及び主要な公的統計の作成・解釈・普及の基準や枠組みについて研修を行い、知識及び公的統計作成能力を向上させることを目的としています。

（※） 2015年9月に国連で採択された、2016年から2030年までの国際的な開発目標で、17のゴール・169のターゲットから構成される。

令和5年度の本研修コースの日程及び参加国は以下のとおりです。

開催期間：令和5年8月21日(月)～12月1日(金)

参加国：アンゴラ、フィジー、カザフスタン、キルギス共和国、マリ、ミクロネシア、モンゴル、セントビンセント及びグレナディーン諸島、ソロモン諸島、タンザニア
10か国から10名の研修員が参加

「持続可能な開発目標（SDGs）のモニタリングのための公的統計の理論と実務」コースの内容について

研修科目は、以下のとおりとなっています。

① 公的統計の基本

統計基準と統計システム、社会統計、経済統計と国民経済計算 等

② 統計手法

記述統計及びRによる推測統計 等

③ SDG指標の概論

持続可能な開発のための2030アジェンダ、SDGグローバル指標の枠組み 等

④ SDGsに関連するデータ及び統計

貧困及び不平等の測定、環境統計 等

⑤ SDG指標の分析(プロジェクトワーク)

⑥ 日本の公的統計

日本の統計システムや日本の主要な基幹統計 等

⑦ アクションプラン



▲ SIAP講師による講義

講義は、主としてSIAPの講師が行います。また、内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省といった各府省や国立社会保障・人口問題研究所、日本銀行からも講師を派遣してもらい、日本の公的統計について講義が行われます。

このほか、国際通貨基金（IMF）、国際連合食糧農業機関（FAO）、世界銀行、国際連合教育科学文化機関（UNESCO）、世界保健機関（WHO）、国際労働機関（ILO）といった国際機関からの専門家によるSDGsに関する各種統計についての講義も行っています。

研修員は、講義に加え、2班に分かれ、研修員が自ら決めたテーマについてデータを取得・分析し、レポートにまとめ発表するプロジェクトワークを行います。今年度は、「教育水準と出生率の関係」、「気候変動が島しょ国に与える影響」について班ごとに分析・取りまとめを行いました。



▲ プロジェクトワークの様子

研修員は、研修の最後に、研修内容を帰国後どのように自国の統計業務に生かしていくかまとめたアクションプランを作成することになっています。

このほか、日本の公的統計を実地に学ぶため、総務省第二庁舎（新宿区若松町）や長崎県への実地研修を行いました。

◆ 第二庁舎訪問 ◆

10月3日（火）に、総務省第二庁舎を訪問し、政策統括官（統計制度担当）室、統計局、独立行政法人統計センターの各業務等について説明を受けました。また、北原政策統括官（統計制度担当）を表敬訪問したほか、OCR室やオンサイト室及び統計博物館を見学しました。



▲ 北原政策統括官表敬訪問時の写真



▲ 統計博物館

◆ 長崎県 実地研修 ◆

長崎県の協力を得て10月11日（水）～13日（金）の3日間にわたり、地方公共団体（都道府県）における統計業務について講義、調査員及び家計調査世帯との懇談等を行いました。

10月11日（水）

実地研修初日は、県民生活環境部長に表敬訪問後、県勢概要、統計課の業務、家計調査の概要について、長崎県から講義を受け、その後、統計課執務室の視察を行いました。



▲ 県庁前での集合写真

10月12日（木）

2日目は、家計調査の調査区を視察し、調査世帯及び調査員との懇談を行いました。午後は、原爆資料館を訪問後、長崎県職員と質疑応答や意見交換を行いました。

【調査員及び家計調査世帯との懇談について】

調査員の方から調査の依頼方法について説明してもらったところ、研修員から、オートロックマンションの場合の依頼方法や調査員向け研修について質問が出ました。

また、家計調査世帯の方から、調査に使用する家計簿をもとに記入方法について説明してもらったところ、研修員からレシートを紛失してしまった場合の対応や消費税の扱いについて質問が出ました。

一方、調査員及び家計調査世帯の方からも研修員に対して、「家計調査のような調査が研修員の出身国でもありますか。」といった質問が出ました。



▲ 調査区視察の様子

長崎県とは、統計調査のデジタル化や調査員の確保への取組状況等について意見交換を行いました。

10月13日（金）

最終日は、水産加工工場及びグラバー園を見学しました。

なお、3日間の実地研修を通して研修員、長崎県、調査世帯及び調査員の方から次のような声がありました。

【研修員の感想】

- ・ 実際に調査区に行き、調査員や家計調査世帯から直接お話を伺うことができ、貴重な機会になった。
- ・ 若い世代に統計を慣れ親しんでもらうための取組等県独自の取組を知ることができ大変参考になった。

【長崎県の感想】

- ・ 研修を通して自国の統計業務をより発展させたいという思いを持っている研修員との交流を通して、改めて統計業務の重要性を見つめ直す機会になった。

【調査世帯・調査員の方の感想】

- ・ 海外の統計調査の内容を知ることができ、また、統計調査に熱心な研修員と意見交換ができ、大変貴重な機会になった。

日本統計年鑑の御紹介

総務省統計局では、「第七十三回 日本統計年鑑（令和6年）」を刊行しました。
また、当刊行物以外にも、統計局を始め各府省や国内外の機関が実施した統計調査の結果や業務報告などに基づく統計情報を総合統計書として編集・刊行していますので紹介します。

「日本統計年鑑」は、我が国の官公庁や民間調査機関などが実施又は作成している統計調査、業務統計及び加工統計から、国土、人口、経済、社会、文化などの広範な分野にわたる基本的な統計を、網羅的かつ体系的に収録したものです。

本書は、明治5年刊行の「辛未政表（しんびせいひょう）」を起源として、明治15年の創刊以来59回に及んだ「日本帝国統計年鑑」の流れをくむものであり、第二次世界大戦の影響で一時刊行を停止した後、昭和24年から「日本統計年鑑」として新たに刊行を始め、その後、毎年刊行してきました。

第七十三回は、30の分野及び543の統計表から成り、各章の冒頭では、統計の資料源、調査方法などについても解説しています。

国勢を総覧する総合統計書として是非御利用ください。



日本統計年鑑

「日本統計年鑑」のほかに、次の総合統計書を刊行しています。



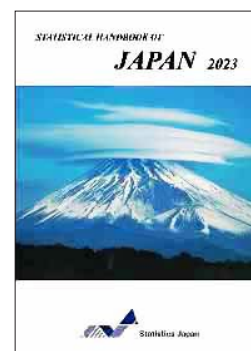
日本の統計

我が国の基本的な統計を手軽に利用しやすく編集したものです。



世界の統計

世界各国の実情や世界における我が国の位置付けを知るための参考となる様々な統計を編集したものです。



Statistical Handbook of Japan

統計を通じ、我が国の最近の実情をグラフや写真を交えて英文で紹介したものです。



社会生活統計指標—都道府県の指標—

社会・人口統計体系において整備した基礎データを用いて作成している統計指標の中から、都道府県別の主要なデータを取りまとめたものです。



統計でみる都道府県のすがた

社会生活統計指標—都道府県の指標—の中から、主な指標値を選定し、各都道府県の指標が一覧できるように再編集したものです。



統計でみる市区町村のすがた

社会・人口統計体系で収集したデータのうち市区町村別の主な基礎データを一覧できるように取りまとめたものです。

刊行している総合統計書は、統計局ホームページにも掲載していますので御覧ください。

<https://www.stat.go.jp/data/sougou/index.html>

統計データの利活用を推進するため 地方自治情報化推進フェア2023に出展しました!

総務省統計局では、令和5年10月5日(木)～6日(金)の2日間、幕張メッセで開催された「地方自治情報化推進フェア2023」にブースを出展し、「政府統計の総合窓口(e-Stat)」や「統計ダッシュボード」などをより一層普及するための広報活動を行いました。地方自治情報化推進フェアは、費用対効果に優れ利用者の視点に立った利便性の高い先進的な情報システムや行政サービスの高度化、地域の課題解決における積極的なICTの活用方法等、自治体DXを推進することを目的に毎年開催されています。

出展したブースでは、パソコンやタブレット端末を用いて、「統計ダッシュボード」などを実際に操作し、機能を紹介するデモンストレーションを行ったほか、パンフレットの配布、「地方公共団体のためのデータ利活用支援サイト(Data StaRt)」や「データサイエンス・オンライン講座」の案内も行いました。

開催期間中は、国・自治体職員、民間事業者など大勢の方がブースを訪れ、職員からの説明やデモンストレーションに熱心に耳を傾けるなど、多くの方に関心を持っていただくことができました。統計局では、今後も展示会への出展、講演等の活動を通じて、統計データの利活用を積極的に推進していきます。



▲当日のブースの様子



▲総務省統計局イメージキャラクターのセンサスくん(左)とみらいちゃん(右)も登場し、広報活動を行いました。

令和5年度統計研修受講記

令和5年度「経済予測」を受講して

沖縄県企画部企画調整課 真栄田 美里

私の所属する部署は、県内景気動向の判断や県経済情勢を公表しているほか、県内総生産を始めとする経済指標を定量的に推計し、「経済見通し」を策定する業務を担当しております。

県経済の構造や相互関連を表す連立方程式体系から成るマクロ経済モデルを活用し、経済見通しの策定業務を担当していることから、本研修を希望いたしました。

本研修の前には、自身の業務に関連している「国民・県民経済計算」及び「初めて学ぶ統計」の動画講座も受講いたしました。

本研修初日の「現下の経済動向」は、景気の山・谷がどのようなプロセスで判定されるのか、過去データを基に分析していくほか、各種統計から見た現下の日本経済の構造や日本経済見通しについての研修でした。業務に直結する内容で、また経済史に関する補足資料の配布もあり、大変参考になりました。

「産業連関表による経済波及効果」では、産業連関表の構造解説から始まり、経済波及効果分析の基礎、そして分析する上での留意事項の説明があり、またExcelで実際に経済波及効果を算出し、レオンチェフ逆行列の計算など演習を行いました。経済波及効果算出や行列計算は初めて学びましたが、講師の解説と研修資料が非常に理解しやすく吸収できました。

「予測のための経済基礎理論・マクロ計量モデルによる経済予測」では、モデル構築と推計のための練習問題

をこなしていく研修であり、回帰分析を経験したことのない研修生がほとんどでしたが、回帰分析の工程全てを説明していただきマスターすることができました。回帰分析は、その後の講義でも使用したため、すぐに習得することができました。

「生産関数による経済予測」では、経済循環構造、経済予測における三つの経済モデルの特徴を理解した上で、生産関数を用いた分析を学びました。また、資本ストックの推計方法や、生産関数に関連するデータの解説があり、膨大な情報量が資料でまとめられており、独学で学習するには限界がある内容だったと感じました。

本研修は、経済予測や産業連関表に関する基礎知識から実践まで含まれているため、該当する業務を担う方々にとって非常に有意義な研修になるかと思います。

また、今回は研修所の寮に宿泊することで、講義終了後も寮でゆっくり資料を確認できたため、集中して講義に臨むことができました。

研修終了後も、講義動画が視聴可能だったことから、演習Excelと併せて確認し、理解の定着を図りました。

最後になりますが、研修生の進捗に合わせて丁寧な御教示くださった先生方及び事務局の皆様がこの場を借りて御礼申し上げます。研修期間中は誠にありがとうございました。

更なる知識向上のため、引き続き統計研修等を受講し、業務にいかしていきたいと思っています。

最近の数字

		人 口		労 働・賃 金		産 業		家計(二人以上の世帯)		物 価	
		総人口 (推計による人口)	就業者数	完全失業率 (季節調整値)	現金給与総額 (規模5人以上)	鉱工業 生産指数 (季節調整値)	サービス産業 の月間売上高	1世帯当たり 消費支出	1世帯当たり 可処分所得 (うち勤労者世帯)	消費者物価指数	
		千人(Pは万人)	万人	%	円	2020=100	兆円	円	円	全国	東京都区部
										2020=100	2020=100
実数	2023. 6	124511	6785	2.5	461,811	105.7	33.1	275,545	725,550	105.2	105.1
	7	P 12456	6772	2.7	380,063	103.8	P 32.5	281,736	513,069	105.7	105.5
	8	P 12454	6773	2.7	281,714	103.1	P 32.2	293,161	449,278	105.9	105.6
	9	P 12445	6787	2.6	277,700	103.6	P 34.5	282,969	398,754	106.2	105.8
	10	P 12434	6771	2.5	P 279,172	P 104.6	...	301,974	463,445	107.1	106.8
	11	P 12431	...	...	...	...	...	...	...	...	P 106.5
前年 同月比	2023. 6	-	0.4	* -0.1	2.3	* 2.4	3.9	-4.2	-5.1	3.3	3.2
	7	-	0.3	* 0.2	1.1	* -1.8	P 4.4	-5.0	-6.4	3.3	3.2
	8	-	0.3	* 0.0	0.8	* -0.7	P 5.4	-2.5	-5.4	3.2	2.9
	9	-	0.3	* -0.1	0.6	* 0.5	P 5.4	-2.8	-4.7	3.0	2.8
	10	-	0.2	* -0.1	P 1.5	* P 1.0	-	-2.5	-5.1	3.3	3.2

(注) P：速報値 *：対前月
家計（二人以上の世帯）の前年同月比は実質値

掲示板 統計関係の主要日程（2023年12月～2024年1月）

《会議及び研修関係等》

時 期	概 要	時 期	概 要
12月 6 日	第71回全国統計大会	1 月下旬	オンライン統計研修【第4回】統計取扱業務担当職員向け研修「初めて学ぶ統計」開講（～2月下旬）
14 日	登録調査員中央研修	〃	オンライン統計研修【第4回】統計実務職員（統計データアナリスト補）研修「統計利用の基本」開講（～2月下旬）
19 日	地域分析コース「地域分析」開講【集合】（～21日）	〃	オンライン統計研修【第4回】データ活用コース「政策立案と統計」開講（～2月下旬）
〃	実例でひも解く ビジネスパーソン向け統計データ活用セミナー【第1回】【ライブ配信】	〃	オンライン統計研修【第4回】統計作成実務コース「国民・県民経済計算」開講（～2月下旬）
1 月23 日	マイクロデータコース「マイクロデータ分析のためのプログラミングー統計解析ソフトRの利用方法ー」開講【集合】（～26日）	〃	
26 日	実例でひも解く ビジネスパーソン向け統計データ活用セミナー【第2回】【ライブ配信】		

《調査結果の公表関係》

時 期	概 要	時 期	概 要
12月 1 日	労働力調査(基本集計)2023年10月分公表	1 月 9 日	小売物価統計調査(東京都区部：2023年12月分)公表
5 日	消費者物価指数(東京都区部：2023年11月分(中旬速報値))公表	12 日	小売物価統計調査(ガソリン)2023年12月分公表
〃	小売物価統計調査(東京都区部：2023年11月分)公表	19 日	消費者物価指数(全国：2023年12月分及び2023年平均)公表
8 日	家計調査(家計収支編：2023年10月分)公表	〃	小売物価統計調査(全国：2023年12月分)公表
〃	家計消費状況調査(支出関連項目：2023年10月分)公表	22 日	人口推計(2023年8月1日現在確定値及び2024年1月1日現在概算値)公表
〃	消費動向指数(CTI)2023年10月分公表	26 日	消費者物価指数(東京都区部：2024年1月分(中旬速報値))公表
〃	小売物価統計調査(ガソリン)2023年11月分公表	〃	小売物価統計調査(東京都区部：2024年1月分)公表
15 日	2023年科学技術研究調査結果公表	〃	家計調査(貯蓄・負債編：2023年7～9月期平均)公表
20 日	人口推計(2023年7月1日現在確定値及び2023年12月1日現在概算値)公表	30 日	労働力調査(基本集計)2023年12月分、2023年10～12月期平均及び2023年平均公表
21 日	住民基本台帳人口移動報告(2023年11月分)公表	31 日	サービス産業動向調査(2023年11月分速報及び2023年8月分確報)公表
22 日	消費者物価指数(全国：2023年11月分)公表	下旬	住民基本台帳人口移動報告(2023年12月分)公表
〃	小売物価統計調査(全国：2023年11月分)公表	〃	住民基本台帳人口移動報告(2023年結果)公表
25 日	経済構造実態調査(2022年四次集計結果)公表		
26 日	労働力調査(基本集計)2023年11月分公表		
28 日	サービス産業動向調査(2023年10月分速報及び2023年7月分確報)公表		
31 日	統計トピックス 「辰年生まれ」と「新成人」の人口ー令和6年 新年にちなんでー公表		
1 月 9 日	家計調査(家計収支編：2023年11月分)公表		
〃	家計消費状況調査(支出関連項目：2023年11月分)公表		
〃	消費動向指数(CTI)2023年11月分公表		
〃	消費者物価指数(東京都区部：2023年12月分(中旬速報値)及び2023年平均(速報値))公表		

編集発行

総務省統計局

〒162-8668 東京都新宿区若松町19-1

総務省統計局 統計情報利用推進課 情報提供第一係

TEL 03-5273-1160 E-mail y-teikyoul@soumu.go.jp

ホームページ <https://www.stat.go.jp/>

御意見・御感想をお待ちしております。